

ランキング：5位

弘前工^公

①弘前市②春2回(0勝2敗)夏3回(1勝3敗)③藤田航生(西武)④平成国際大、八戸工業大、日本工業大など

私学が台頭する前、昭和の終わり頃に躍進。春夏5回の甲子園出場を誇る。日本大卒業後、弘前工に赴任し、1976年のセンバツ初出場時にコーチだった横浜寿雄氏が監督となったのが1978年。以来、35年もの間、監督として指導した。1980年には夏の甲子園初出場。1984年には秋の東北大会で優勝。1988、1989年と青森大会を連覇した。1989年は唯一の白星を挙げているが、県勢としては準優勝した三沢以来、20年ぶりの勝利だった。2015年ドラフトで建築科だった藤田航生が西武から9巡目指名を受けて入団。弘前工初のプロ野球選手となった。

Column

はるか夢球場がリニューアル
県内初の人工芝球場に

2016年まで青森大会のメイン会場は青森市営球場だった。たった1つの甲子園切符をかけた決勝でいくつもの名勝負が生まれ、青森県の高校野球史を刻んできた。一方、弘前市の「はるか夢球場」は県内初の人工芝の野球場に生まれ変わるために2015年から改修工事が行われ、2016年夏は工事を休止して使用。2017年、本格的にリニューアルオープンすると夏は準々決勝からメイン球場として使用され、1県1校が代表になった1978年以降では初めて、弘前市で決勝が行われた。プロ野球の一軍公式戦も開催されるなど盛り上がりを見せたが、高校野球では足をつる選手が続出してしまふ事態も。周囲からは全面人工芝の球場の影響という声が出ている。

ランキング：圏外

弘前東^私

①弘前市②なし③なし④日本体育大、富士大、仙台大、東京情報大など

1957年に開校し、2005年から現校名になった。野球部は1980年に創部されたが、かつては弱小校だった。2010年に弘前実—日体大の葛西徳一監督が就任。練習をサボるなど荒れていたチームを改革し、力をつけてきた。2012年春に東北大会初出場を果たすと、同夏には初のベスト4に進出。2016年には初めて秋の東北大会も経験した。2017年秋は県大会準決勝で八戸学院光星を下す。葛西監督就任後、7度目の対戦での初勝利だった。秋は2016年から3年連続で東北大会に出場中。まだ全国的には無名だが、甲子園まであと一步のところまで来ている。

ランキング：8位

弘前実^公

①弘前市②夏5回(1勝5敗)②木村聖一(元日本ハム)、工藤隆人(元中日ほか)、外崎修汰(西武)④富士大、青森中央学院大、星槎道都大など

近年は上位進出が減っているが、毎年50~60人ほどの部員を有し、弘前工とともに人気が高い。甲子園初出場は1979年夏。その後、木造を甲子園に導いた故・外崎忠彦監督により84、91、92、96年と甲子園切符をつかみ、一時代を築いた。96年出場時には甲子園の歴史上でも2人しかいない左利きの三塁手がいたことでも話題を呼んだ。青森大会決勝進出は2000年が最後。復活にかけたい。OBは工藤隆人が青森大—JR東日本を経て、外崎修汰が富士大を経て、それぞれプロ入りしている。スポーツ科学科など4学部6学科があり、バスケットボールや相撲が盛ん。